

2027年度

# 学内進学試験要項

## 総合情報学研究科

大学院入試情報サイトに掲載している  
『学生募集要項 別冊(研究科共通)』も必ずご確認ください。

関西大学大学院

# 目 次

I	2027 年度入学試験日程および各種手続期間一覧……………	1
II	募集内容……………	2～10
III	出願書類に関する注意事項……………	11～12

## I 2027年度入学試験日程および各種手続期間一覧

出願手続は、出願登録、入学検定料の納入、出願書類の提出により完了します。

出願登録のみでは出願したものとして取り扱いません。

出願に際しては本冊子および『学生募集要項 別冊（研究科共通）』に記載の内容を十分に確認して手続きしてください。

注 学内進学試験以外の入試種別は別途案内しています。

### 【春学期入学】

日 程	6月募集	10月募集	2月募集
出願登録期間 入学検定料納入期間 出願書類提出期間	2026年4月27日(月)~5月11日(月)	2026年8月21日(金)~9月4日(金)	2026年12月18日(金) ~2027年1月8日(金)
受験票ダウンロード 開始日	2026年6月1日(月)	2026年10月5日(月)	2027年2月15日(月)
試験日	2026年6月6日(土) (予備日)2026年6月20日(土)	2026年10月10日(土) (予備日)2026年10月24日(土)	2027年2月20日(土) (予備日)2027年2月21日(日)
合格者発表日	2026年6月12日(金) (予備日)2026年6月26日(金)	2026年10月16日(金) (予備日)2026年10月30日(金)	2027年2月26日(金)
入学手続I-(1)	関西大学を卒業または関西大学大学院を修了した者は、 入学金<入学登録金>を徴収しないため、この手続きは不要です。		
入学手続I-(2) 入学手続II	2027年2月15日(月)~3月15日(月)		2027年2月26日(金)~3月15日(月)

### 【秋学期入学】

日 程	7月募集
出願登録期間 入学検定料納入期間 出願書類提出期間	2027年5月20日(木)~6月3日(木)
受験票ダウンロード 開始日	2027年7月5日(月)
試験日	2027年7月10日(土) (予備日)2027年7月24日(土)
合格者発表日	2027年7月16日(金) (予備日)2027年7月30日(金)
入学手続I-(1)	関西大学を卒業または関西大学大学院を 修了した者は、入学金<入学登録金>を 徴収しないため、この手続きは不要です。
入学手続I-(2) 入学手続II	2027年8月20日(金)~9月3日(金)

### 【予備日の設定について】

台風接近による暴風警報発令および交通機関運行停止により試験を延期する場合は、上記のとおり予備日に実施します。その場合は、試験当日7時に本大学院入試情報サイトに掲載します。

## II 募集内容

### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

総合情報学研究科では、研究者養成ならびに高度な専門知識を有する職業人「情報スペシャリスト」の養成を目的とし、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れます。

- 1 学士課程またはそれに準ずる課程で専攻した専門分野を中心に専門的な知識・技能を修得している。
- 2 豊かな学識と高度な研究能力を備えた研究者及び「情報スペシャリスト」への強い意欲を持っている。
- 3 本学の学是である「学の実化（学理と実際との調和）」に基づいた情報学の理論及び応用の研究の実現を目指し、その成果をもって情報社会の進展に貢献できる力を有している。

課 程	専 攻	入学定員
前期課程	社会情報学専攻	15名
	知識情報学専攻	35名

※ 入試種別ごとの募集人員は設定していません。

## 1 出 願 資 格

[春学期入学]

### 【6月募集】

関西大学総合情報学部を2026年9月または2027年3月卒業見込みの者

### 【10月募集・2月募集】

関西大学総合情報学部を2027年3月卒業見込みの者

[秋学期入学]

### 【7月募集】

関西大学総合情報学部を2027年9月卒業見込みの者

## 2 出 願 書 類

出願書類【書類番号】	備 考
出願確認票(大学提出用) 【①】	出願登録および入学検定料の納入完了後に印刷可能(カラー印刷推奨)。
志望理由書【②】	研究科所定の用紙
成績証明書【③】	本学に編・転入学した場合は、それ以前の大学等の成績証明書も併せて提出してください。
卒業見込証明書【④】	
研究計画書【⑤】	概要1,000字程度 研究科所定の用紙
写 真 1 枚	出願前3カ月以内に撮影されたものを志望理由書に貼付してください。なお、修整・加工したものは不可。

## 3 選 考 方 法

書類選考、筆記試験および口頭試問

## 4 合 否 判 定 基 準

書類選考、筆記試験および口頭試問の結果を総合して合否を判定します。

ただし、筆記試験または口頭試問の得点が基準点に抵触する場合は、総合得点に関係なく、不合格となることがあります。

なお、総合情報学研究科で学ぶために必要不可欠な素養を評価・審査するため、合格者数が入学定員を満たさない場合があります。

## 5 試 験 科 目 ・ 試 験 時 間 お よ び 配 点

筆記試験(100点)	口頭試問
専門科目 <志望する課題研究科目について行います>	<提出した志望理由書等により行います>
10:00~11:30(90分)	13:00~

## 6 志望課題研究科目

(1) 志望理由書の「志望課題研究科目」欄は、「2027 年度 総合情報学研究科（前期課程）授業科目および担任者一覧」（5 ページ）、総合情報学研究科ウェブサイトおよび「関西大学大学院 Information」を参照のうえ、各自が志望する専攻の課題研究科目を選択してください。

なお、出願書類提出に先立ち、本研究科において勉学を希望する課題研究科目の担当教員に、必ず事前に申し出て相談してください。

(2) 出願後、志望課題研究科目の変更は一切認めません。

注 授業科目および担任者は変更することがあります。

変更が生じた場合は、大学院入試情報サイトでお知らせしますので、出願前にご確認ください。

<<https://kansai-gradsch.kansai-u.ac.jp/>>

(2026年4月現在)

## 2027年度 総合情報学研究科（前期課程）授業科目および担任者一覧

### <社会情報学専攻>

	授 業 科 目	資 格	取 得 学 位	担 任 者
課 題 研 究 科 目	☆ 教育における情報メディア利用			
	★ 情報通信技術（ICT）と新しい教育	教授 教授 教授	博（教育学）広大 Ph.D. トロント大	● 黒 上 晴 夫 *1 ● 小 柳 和 喜 雄 ● 川 島 裕 子
	☆ 情報社会とメディア			
	★ 情報メディアの変容とコミュニケーション	教授 教授 教授	博（人間科学）阪大 博（人間科学）阪大	● 岡 田 朋 之 ● 谷 本 奈 穂 ● 阪 口 祐 介
	★ 情報化社会における人間科学的アプローチ	教授 教授 教授	Ph.D. フロリダアトランティック大 博（文学）京大 博（学術）広大	● 森 尾 博 昭 ● 太 田 紘 史 ● 古 谷 嘉 一郎
	★ メディア表現とデザイン戦略による社会展開	教授 教授	博（美術）京都市立芸大 博（美術）愛知県立芸大	● 井 浦 崇 ● 長 谷 海 平
	☆ 産業情報システム			
	★ デジタル社会における価値創造	教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授	博（経済）阪大  博（商）関学大  博（経営）神大 博（商）関大 博（国際協力）東大	● 伊 佐 田 文 彦 ● 古 賀 広 志 ● 齋 藤 雅 子 ● 施 山 學 昌 *1 ● 德 山 美 津 恵 ● 中 尾 悠 利 子 ● 羽 藤 雅 彦 ● 松 本 涉
	☆ 公共領域における情報			
	★ 公共領域におけるデータベース	教授 教授 教授 教授 准教授 准教授	博（法）神大  博（経済）京大 博（経済）神大 博（経済）阪大 博（政治学）神大 博（法）京大	● 泉 克 幸 *2 ● 名 取 良 太 ● 大 堀 秀 一 ● 太 田 勝 裕 ● 中 元 康 裕 ● 宋 財 法 池 田 峻

### <知識情報学専攻>

	授 業 科 目	資 格	取 得 学 位	担 任 者
課 題 研 究 科 目	☆ ヒューマンコンピュータインタラクション			
	★ 人間共生社会におけるインタラクションの学際的分析と構築	准教授 教授 教授 教授	博（心理学）九州大 博（工学）中央大 博（学際情報学）東大 博（情報科学）名大	● 佐々木 恭志郎 ● 多 田 昌 裕 ● 研 谷 紀 夫 ● 米 澤 朋 子
	★ インタラクションデザインの理論と実践	教授 教授 教授	工博（阪大） 博（工）阪大 博（工）名古屋工大	● 堀 下 雅 洋 *1 ● 松 下 光 範 ● 山 西 良 典
	★ デジタルメディア技術とアートによる情報表現	教授	博（工）名大	● 林 武 文 *1
	☆ インテリジェントコンピューティング			
	★ インテリジェントコンピューティングの応用	教授 教授 教授 准教授	博（工）阪大 博（工）関大 博（工）東大	● 竹 中 要 一 ● 田 中 成 典 ● 友 枝 明 保 ● 小 林 孝 史
	★ スマートシステムデザインの数理と応用	教授 教授 教授 教授 教授	博（工）広大 工博（大阪府立大） 博（工）鳥取大 博（理）東京工業大 博（工）京大	● 広 兼 道 幸 *1 ● 林 勲 *1 ● 井 上 真 二 ● 奈 良 光 紀 ● 堀 口 由 貴 男
	★ 社会を変えるモバイルロボティクス	教授 教授	博（工）奈良先端大 博（工）阪大	● 田 頭 茂 明 ● 荻 野 正 樹
	☆ コンピューティングアルゴリズム			
	★ 人間の知覚・感覚モデルの構築と応用コンピューティング	教授 教授 教授	博（工）阪大 博（工）岡山県立大 博（工）金沢大	● 浅 野 晃 ● 瀬 島 吉 裕 ● 林 貴 宏
	☆ 分散コンピューティング			
	★ 通信ネットワーク技術の多面的な研究展開	教授 教授 教授 教授	博（工）阪大 理博（東北大） 博（工）神大 博（情報科学）阪大	● 堀 井 康 史 *1 ● 今 野 一 宏 ● 桑 門 秀 典 ● 笹 部 昌 弘

注1 ☆印は課題研究分野、★印は課題研究科目を示します。

注2 ●印は研究指導教員、\*1印は学生募集を行わない教員、\*2は秋学期入学の学生募集を行わない教員を示します。

# 2027年度 総合情報学研究科（前期課程）課題研究科目一覧

\*1 印は学生募集を行わない教員、\*2 は秋学期入学の学生募集を行わない教員を示します。

## 【社会情報学専攻】

### 情報通信技術（ICT）と新しい教育（\*1 黒上 晴夫、小柳 和喜雄、川島 裕子）

情報通信技術（ICT）の急速な発展により、Society 5.0 と呼ばれる社会が実現しようとしている。その中で、コミュニケーションの仕方や意味が大きく変わり、学習についての捉え方や、学習を支える環境も変革しつつある。これらをふまえて、これからの教育・コミュニケーションのあり方やシステムについて実証的に調査・研究を行う。

1. ICTを基盤とする学習のカリキュラム開発と評価に関する調査・研究
2. グローバル社会におけるコミュニケーション方略と教育に関する調査・研究
3. 学習の意味やメカニズムの変化、学習をうながすシステムについての調査・研究
4. 関係の中で生まれる自己／他者理解などの、学びの見方についての研究

黒上 (kurokami@kansai-u.ac.jp) 小柳 (oyangji@kansai-u.ac.jp) 川島 (y\_kawa@kansai-u.ac.jp)

### 情報メディアの変容とコミュニケーション（岡田 朋之、谷本 奈穂、阪口 祐介）

情報メディアの高度化はコミュニケーションや文化のグローバル化をもたらしただけでなく、産業・経済・生活などあらゆる面で大きな変化をうながしている。本プロジェクトでは新たなメディアやコミュニケーション文化の形成の兆しを視野におさめつつ、社会学的観点から以下のような調査・研究を行う。

1. メディア・エコシステムの新たな展開
2. 文化、コミュニケーションあるいは社会的行為の様式の変容
3. メディア・イノベーションの現代史的考察

岡田 (okada@kansai-u.ac.jp) 谷本 (tanimoto@kansai-u.ac.jp) 阪口 (yusuke@kansai-u.ac.jp)

### 情報化社会における人間科学的アプローチ（森尾 博昭、太田 紘史、古谷 嘉一郎）

我々は社会のなかで様々な情報に囲まれて生活している。本プロジェクトにおいては、情報と人間との関係性に焦点を当て、人が社会のなかでいかなる情報を求めているのか、そして、人は情報を受けとめたことによってどのような影響を受けるのか、また、人は他者といかに情報をやりとりしているのか、さらには、社会の情報化が生み出す諸問題に人としてどのように向き合うのかといった問題をとりあげ人間科学的アプローチから研究を進めていく。

森尾 (hmorio@kansai-u.ac.jp) 太田(紘) (ota.koji@kansai-u.ac.jp) 古谷 (kaichiro@kansai-u.ac.jp)

### メディア表現とデザイン戦略による社会展開（井浦 崇、長谷 海平）

本プロジェクトは、メディアアートおよび映像芸術を基盤とする創造的実践を出発点に、デザインおよびデザインマネジメントの展開を通じて社会実践へ接続する統合型研究である。社会実践は実用化に限定せず、芸術実践研究の視座から制作過程を含めて実験的かつ公開性の高い形で展開することを重視する。制作を軸としつつ理論的検討と技術的探究を循環させることで、多様化するメディア環境に対応した持続的な創造モデルを構築し、芸術的価値と社会的意義を接続する新たな実践知の確立を目的とする。

井浦 (iura@kansai-u.ac.jp) 長谷 (hase@kansai-u.ac.jp)

## デジタル社会における価値創造

(伊佐田 文彦、古賀 広志、齋藤 雅子、\*1 施 學昌、徳山 美津恵、中尾 悠利子、羽藤 雅彦、松本 渉)

今日、デジタル化・グローバル化・エコロジカル化などの環境変化や社会構造の変化に直面する現代企業は、データとデジタル技術を活用した組織変革が求められている。本課題研究では、このような変革を「価値創造活動の再編成」として捉え、それを実現していく上での課題を明らかにしていく。このとき、持続的な企業価値向上に資する経営学のさまざまな研究分野をクロスオーバーさせることで、デジタル社会における価値創造の課題を検討していく。

伊佐田 (isada@kansai-u.ac.jp) 古賀 (hiroshi@kansai-u.ac.jp) 齋藤 (msaito@kansai-u.ac.jp)  
施 (shi@res.kutsc.kansai-u.ac.jp) 徳山 (toku\_san@kansai-u.ac.jp) 中尾 (y-nakao@kansai-u.ac.jp)  
羽藤 (hato@kansai-u.ac.jp) 松本 (matsumo@kansai-u.ac.jp)

## 公共領域におけるデータベース

(\*2 泉 克幸、名取 良太、大堀 秀一、太田 勝憲、中元 康裕、宋 財滋、池田 峻)

公共的な問題を解決するためには、正確に現状を把握し、適切な方法によって原因を解明することが緊要である。

そこで本研究課題では、政府統計・社会調査データや、白書・法令等の文書情報を活用し、統計分析・シミュレーション・数理分析・質的分析など多様な分析メソッドにより、実態を解明していくことを第一の目的とする。また、散在したり、汎用性が低かったりするデータを収集・加工し、データベースに格納する方法を検討し、実装することを第二の目的とし、これらの目的に沿いながら、社会的諸課題について考えを深めていく。

泉 (izumi@kansai-u.ac.jp) 名取 (t000033@kansai-u.ac.jp) 大堀 (ohori@kansai-u.ac.jp)  
太田 (勝) (ohta@kansai-u.ac.jp) 中元 (nakamoto@kansai-u.ac.jp) 宋 (song@kansai-u.ac.jp)  
池田 (s\_ikeda@kansai-u.ac.jp)

## 【知識情報学専攻】

### 人間共生社会におけるインタラクションの学際的分析と構築 (佐々木 恭志郎、多田 昌裕、研谷 紀夫、米澤 朋子)

本研究課題では、人間とコンピュータ（あるいはコンピューティングシステム）とのインタラクションについて、認知心理学実験や哲学的・歴史的検討を通じて多角的に基礎研究を行うとともに、実践的なシステム構築を通じて人間とシステム、あるいは人間同士のインタラクションやコミュニケーションのあり方について、メディア科学の立場から理論的研究を行う。これらの研究を通して、社会におけるコンピューティングシステムのありようについて、技術の標準化や倫理観の確立といった文化的側面から検討し、実装につなげるための基礎理論の構築をめざす。

佐々木 (k-ssk@kansai-u.ac.jp) 多田 (m-tada@kansai-u.ac.jp) 研谷 (ntogiya@kansai-u.ac.jp)  
米澤 (yone@kansai-u.ac.jp)

### インタラクションデザインの理論と実践 (\*|堀 雅洋、松下 光範、山西 良典)

本課題研究では、人間とコンピュータとのインタラクション、およびコンピュータを介した人間同士のインタラクションを対象として、知識情報処理の観点からその円滑化と高度化に取り組む。この目標を達成するために、ソフトウェア技術、実世界指向技術、人間中心設計方法論を基盤とする理論構築とその応用・実践を進めていく。個々の学生は、人間の情報処理特性のモデル化、システムやユーザ経験のデザインと評価、いずれかを主なテーマとしつつプロジェクト全体への貢献が求められる。

堀 (horim@kansai-u.ac.jp) 松下 (m\_mat@kansai-u.ac.jp) 山西 (ryama@kansai-u.ac.jp)

### デジタルメディア技術とアートによる情報表現 (\*|林 武文)

本研究課題は、情報コンテンツにおけるよりよい情報表現の方法を明らかにすることを目的としている。情報の可視化、可聴化、映像やメディアアート作品の制作などデジタルメディア技術とアートによる情報コンテンツの構築および評価を通して、受け手の直感・イメージ・感性などの主観的な情報処理メカニズムの把握と活用方法を明らかにし、それに基づく最適な情報表現について模索する。関連するトピックには、視聴覚情報処理、音楽・映像理論、インスタレーション、ヒューマンコンピュータインタラクション、プロジェクションマッピング、バーチャルリアリティなどが含まれる。

林 (武) (haya@kansai-u.ac.jp)

### インテリジェントコンピューティングの応用 (竹中 要一、田中 成典、友枝 明保、小林 孝史)

本研究課題では、インテリジェントコンピューティングの重要な部分を占めるソフトコンピューティングとして、人工知能、機械学習、ニューラルネットワーク、データサイエンス、数理モデルとそのシミュレーション等の基礎理論を習得し、制御、スケジューリング、テキストマイニング、渋滞緩和、経路設定、錯視作品創作、生物情報解析、情報システムセキュリティに対する実用システムの開発を試みる。さらに、GIS、GPSに基づくヒト・モノ・コトの計測処理、特にスポーツ情報処理、情報システムセキュリティ分野及び自然科学分野へのインテリジェントコンピューティングの応用についても研究する。

竹中 (takenaka@kansai-u.ac.jp) 田中 (stanaka@kansai-u.ac.jp) 友枝 (tomoeda@kansai-u.ac.jp)  
小林 (taka-k@kansai-u.ac.jp)

## スマートシステムデザインの数理と応用

(\*| 広兼 道幸、\*| 林 勲、井上 真二、奈良 光紀、堀口 由貴男)

インテリジェントコンピューティング技術を基盤として、快適・安全・安心な「スマート社会」を実現するシステムデザインの理論と応用に関する研究を行う。研究対象には、快適さ・楽しさ・しなやかさ・効率性等を高い水準で実現する知的情報処理のためのソフトコンピューティングモデルやAIモデル、システムの信頼性や安全性を評価するための確率・統計モデル、解析系の数学に基づく数理モデル、および、これらの実践的応用が含まれる。具体的には、さまざまなセンシングデータから知的な振舞いを生成するための認識・判断・学習・推論プロセスの計算モデル、人の作業を知的に支援する情報デザイン、品質に根ざしたシステム評価、数値シミュレーションや最適化等が研究テーマとして挙げられる。

広兼 (hirokane@kansai-u.ac.jp) 林 (勲) (ihaya@kansai-u.ac.jp) 井上 (ino@kansai-u.ac.jp)  
奈良 (nara@kansai-u.ac.jp) 堀口 (yhorig@kansai-u.ac.jp)

## 社会を変えるモバイルロボティクス (田頭 茂明、荻野 正樹)

本課題研究では、ロボット技術とモバイルネットワーク技術とを有機的に連携させて、能力強化、並列分散操作、体験共有など、ロボットの自律動作と遠隔操作を組み合わせた新たな価値を創造し、実用可能なモバイルロボットプラットフォームの研究を行う。また、ものづくり・医療分野、サービス分野、防犯・災害対策分野などにおいてモバイルロボットの社会実装を目指し、そこで生じる問題について技術・認知・倫理・経済などの観点から多面的に分析を行う。

田頭 (shige@kansai-u.ac.jp) 荻野 (ogino@kansai-u.ac.jp)

## 人間の知覚・感覚モデルの構築と応用コンピューティング (浅野 晃、瀬島 吉裕、林 貴宏)

本課題研究科目では、視覚・聴覚といった人間の知覚・感覚とコンピューティングを融合した研究に取り組む。例えば、人間の知覚能力や特性を考慮したユーザーインターフェイス、映像や音声といった異なるモダリティの情報を統合的に扱うマルチメディアデータベースの設計、人間の生体・行動情報に基づくソーシャルロボットの設計などである。具体的には、色彩や図形の認知の問題を通じて人間の知覚能力を考慮した速やかな理解を支援する研究や、多様な形式の情報を統合的に扱うマルチメディアデータベースの設計などの研究、人間の視線や瞳孔・心拍からロボットとの心地よい対話環境を設計する研究を行う。

浅野 (a.asano@kansai-u.ac.jp) 瀬島 (sejima@kansai-u.ac.jp) 林 (貴) (t.haya@kansai-u.ac.jp)

## 通信ネットワーク技術の多元的な研究展開

(堀井 康史、\*| 今野 一宏、桑門 秀典、笹部 昌弘)

コンピュータ、携帯型無線端末、センサー等の多種多様なデバイスが接続されたネットワークにより、我々の生活は、その進展とともに大きく変貌を遂げようとしている。本課題研究では、アプリケーション層から物理層までの様々な観点から通信ネットワーク技術の研究開発を行い、より快適な生活の実現に貢献することを目的とする。具体的な研究内容としては、生体における信号処理システムの工学的視点からの解明、代数曲線に関する基礎研究とその暗号・符号理論への応用、量子アルゴリズムを用いた暗号技術の研究開発、数理的手法（最適化、ゲーム理論、機械学習など）に基づく高度情報ネットワーク、情報ネットワークにおけるセキュリティ問題を解決するシステム開発を行う。

堀井 (horii@kansai-u.ac.jp) 今野 (k.konno@kansai-u.ac.jp) 桑門 (kuwakado@kansai-u.ac.jp)  
笹部 (sasabe@kansai-u.ac.jp)

## 長期履修学生制度について

総合情報学研究科では、大学院入学者の多様なニーズに対応し、教育研究の機会を拡充するため、従来の博士課程前期課程における 2 年コースの他に修業年限を 3 年とし、授業科目を計画的に履修する「3 年コース」を実施しています。この制度の特徴は下記のとおりです。

### (1) 履修制限単位

本制度により入学する者には、履修制限単位数を変更します。

コース	1 年次	2 年次	3 年次
2 年コース	28	28	—
3 年コース	20	20	16

### (2) 3 年コースにおける授業科目の配当年次

総合情報学研究科	修士論文の研究指導科目である論文指導を 3 年次配当とし、修士論文提出は 3 年次とします。
----------	--

### (3) 在学期間の途中変更

2 年次に進む段階で、研究科において定められた次の条件を満たす場合は、願い出により、3 年コースから 2 年コースへ変更することができます。その場合、2 年次の履修制限単位数は 28 単位とします。

なお、対象者には 1 年次の秋学期（秋学期入学者については 1 年次の春学期）にインフォメーションシステムにてお知らせします。

ただし、2 年コースから 3 年コースへの変更はできません。

総合情報学研究科	1 年次終了時に修士論文の提出要件である 16 単位を修得していること
----------	-------------------------------------

### (4) 在学年限

在学年限は 2 年コース、3 年コースとも 4 年です。

### (5) 修了要件

修了要件は 2 年コース、3 年コースともに同じです。3 年コースでは、2 年コースと同じ修了要件を 3 年かけて履修します。詳細は関西大学教務ガイド「KAN-CAN!」を参照してください。

### (6) 学費

在学期間を途中で変更（3 年から 2 年）した場合の学費総額は、標準修業年限（2 年）の学費総額と同額となります（正確な納入金額については、手続き時にご確認ください）。

長期履修学生制度により 3 年コースを希望する場合は、出願登録の際に「長期履修学生制度」欄で「3 年コース」を選択してください。どちらのコースを選択しても合否判定には関係ありません。

なお、合格後に選択したコースの変更を希望する場合は、春学期入学：2027 年 1 月 8 日（金）まで、秋学期入学：2027 年 7 月 23 日（金）までに、大学院入試グループまでその旨をご連絡ください。

また、2 月募集の合格者は、入学前にコース変更を申し出ることはできませんのでご注意ください。

### Ⅲ 出願書類に関する注意事項

**受理した書類は返却いたしません。**

#### 1 志望理由書について

(1) 手書きの場合、必ず黒のインクまたはボールペン（消せるボールペンは除く）で記入してください。

なお、志望理由書をパソコン等を使用して作成する場合、PDFのフォーム機能を利用して文字入力が可能です。

ただし、正しく入力できない場合やフォーム機能が設定されていない箇所については、印刷後、手書きで記入してください。

(2) 出願後、志望専攻・専修・コース、志望専修科目・演習テーマ・必修科目および志望担任者等の変更は一切認めません。

(3) 学部・学科名は証明書記載の内容と一致するよう、省略せず、正しく記入してください。

(4) 卒業論文論題欄は、仮題でもかまいませんので必ず記入してください。なお、卒業論文が未定の場合は「未定」、ない場合は「なし」と記入してください。また、指導教員がいない場合は、「なし」と記入してください。

(5) 記入する氏名は、住民票または在留カードに基づいて記入してください。

なお、外国人留学生の氏名はカタカナまたは漢字・アルファベットを使用してください（ひらがな不可）。

また、出願登録において代用漢字等を使用した場合については、出願書類と出願登録上の文字が異なっても問題ありません。

#### 2 研究計画書について

必ず氏名を明記してください。

#### 3 その他

(1) 成績証明書、卒業・修了（見込）証明書は原本を提出してください。

（注）原本とは、出身大学（院）等が紙媒体で発行する証明書\*です。

\*PDF等のファイル形式をプリントアウトしたものは該当しません。なお、PDF等のファイル形式をプリントアウトしたものの以外に発行されない場合、プリントアウトしたものに出身大学（院）等でインクスタンプを押印したものを提出すること。

提出された各証明書は返却できませんので、再発行不可等の理由により原本を提出できない場合は、大使館等の公的機関で証明を受けた「公証書（公証処が発行したもの・日本の公証役場は不可）」を提出してください。

各証明書の有効期限はありません。内容が最新のものであれば、過去に取得した証明書でも構いません。

各証明書は、日本語、英語または中国語で書かれているものを有効書類とします。それ以外の言語で書かれている場合は、大使館等の公的機関で証明を受けた日本語または英語の訳文を提出してください。

志望理由書の「学歴事項」欄において、大学・学部・学科名を記入するときには、証明書が英語で書かれている場合は日本語に訳し、中国語で書かれている場合は日本漢字に置き換え、日本の漢字にないものは意識してください。

例) School of Foreign Languages → 外国語学部

旅游与历史文化学院 → 旅游与歴史文化学部

- (2) 必要に応じて、別途書類の提出を求める場合があります。
- (3) 証明書記載の氏名と出願時の氏名が異なる場合は、同一人であることがわかる公的な証明書（戸籍抄本・戸籍個人事項証明書等）を別途提出してください。
- (4) 出願期間内に出願書類が整わない場合、出願を認めないことがあります。
- (5) 出願に関するお問い合わせは、日曜日、祝日および以下の期間以外にお願いします。
  - ・2026年8月1日(土)～9月20日(日)の間の土曜日
  - ・2026年8月11日(火・祝)～8月20日(木)
  - ・2026年12月26日(土)～2027年1月6日(水)
  - ・2027年8月1日(日)～9月20日(月・祝)の間の土曜日
  - ・2027年8月11日(水・祝)～8月20日(金)
- (6) 出願書類の記載事項が事実と異なる場合、不正がある場合は、受験および入学の資格を取り消します。





# 関西大学大学院

<https://kansaigradsch.kansai-u.ac.jp/>

## 千里山キャンパス

法学研究科 文学研究科 経済学研究科 商学研究科 社会学研究科 理工学研究科  
外国語教育学研究科 心理学研究科 東アジア文化研究科 ガバナンス研究科

問合せ先：入試センター大学院入試グループ

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 TEL 06-6368-1121 (大代表)

mailフォーム [https://www.kansai-u.ac.jp/Gr\\_sch/qa/](https://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/qa/)

## 高槻キャンパス

総合情報学研究科

問合せ先：高槻オフィス

〒569-1095 高槻市霊仙寺町 2-1-1 TEL 072-690-3213 (直通)

E-mail: [k-soujyo@ml.kandai.jp](mailto:k-soujyo@ml.kandai.jp)

## 高槻ミューズキャンパス

社会安全研究科

問合せ先：高槻ミューズキャンパス事務グループ (ミューズオフィス)

〒569-1098 高槻市白梅町 7-1 TEL 072-684-4000 (代表)

E-mail: [safety\\_science@ml.kandai.jp](mailto:safety_science@ml.kandai.jp)

## 堺キャンパス

人間健康研究科

問合せ先：堺キャンパス事務室

〒590-8515 堺市堺区香ヶ丘町 1-11-1 TEL 072-229-5022 (代表)

E-mail: [sakai-adm@ml.kandai.jp](mailto:sakai-adm@ml.kandai.jp)